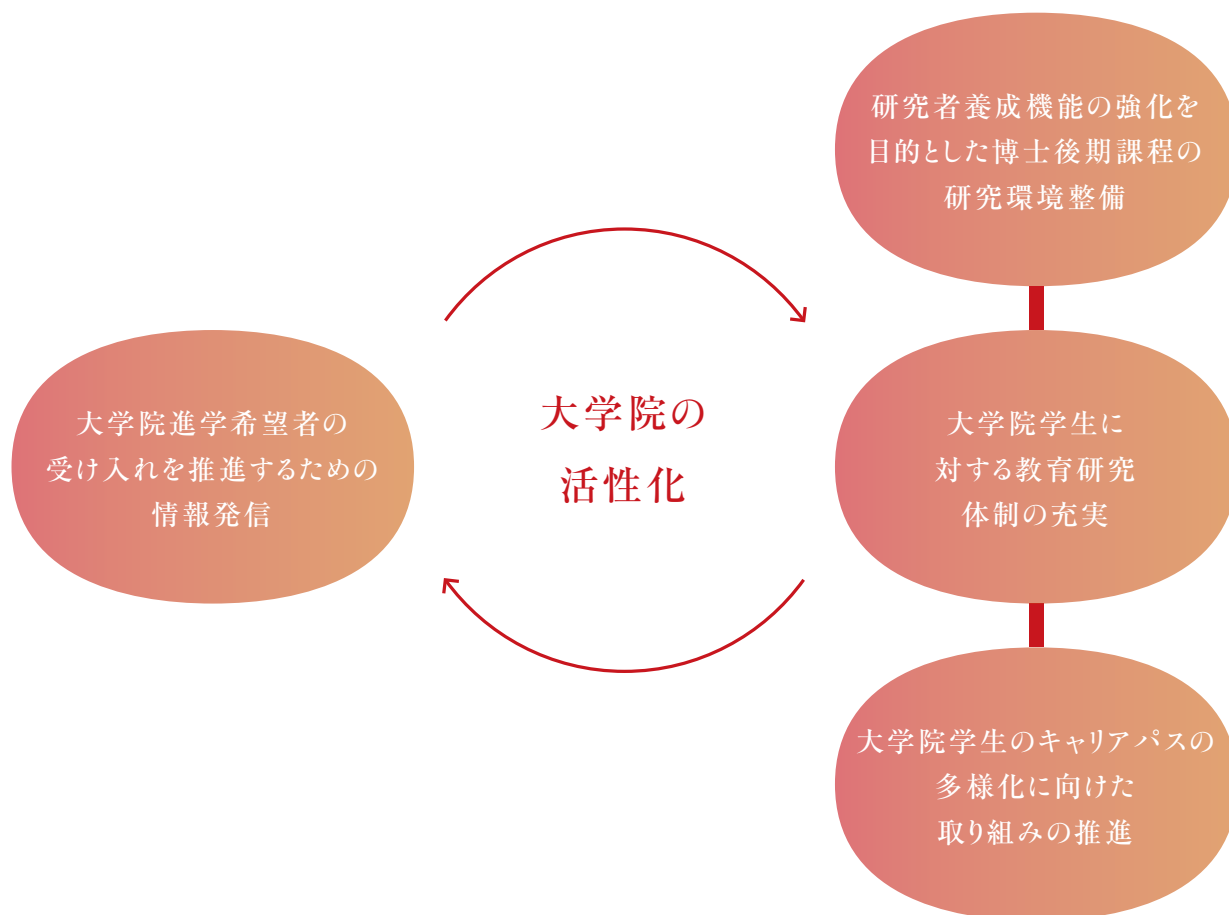


Ⅲ 大学院

「大学院」の基本方針

大学院は、研究者・高度専門職業人の養成だけでなく、研究の遂行においても重要な役割を担っている。研究科間の連携・協力・再編やカリキュラムの諸改革を実行することによって、大学院の活性化を図る。



推進事項1

大学院進学希望者の受け入れを推進するための情報発信

大学院学生の減少が、大学院学生同士の研鑽の機会と教員の活発な研究活動に影響を与えている。学生募集の広報については各研究科のホームページと学事課が行っているが、募集活動に対する認識が深いとは言えない。大学院進学希望者の開拓については、学内進学者・社会人・外国人留学生・高校生などを視野に入れることができるが、カリキュラムやキャリア形成など、受け入れ体制との関連も含め課題が存在する。

大学院を活性化させる第1段階は、大学院学生数の定員充足率を高めることであり、そのためには志願者数を増やす施策を展開することが必要である。

施策

- ①公式ホームページなどによる各研究科の教育研究活動の発信
- ②本学の学部学生に対する募集活動の強化
- ③多様な大学院進学希望者に対して、大学院説明会など、効果的な広報活動の展開

推進事項2

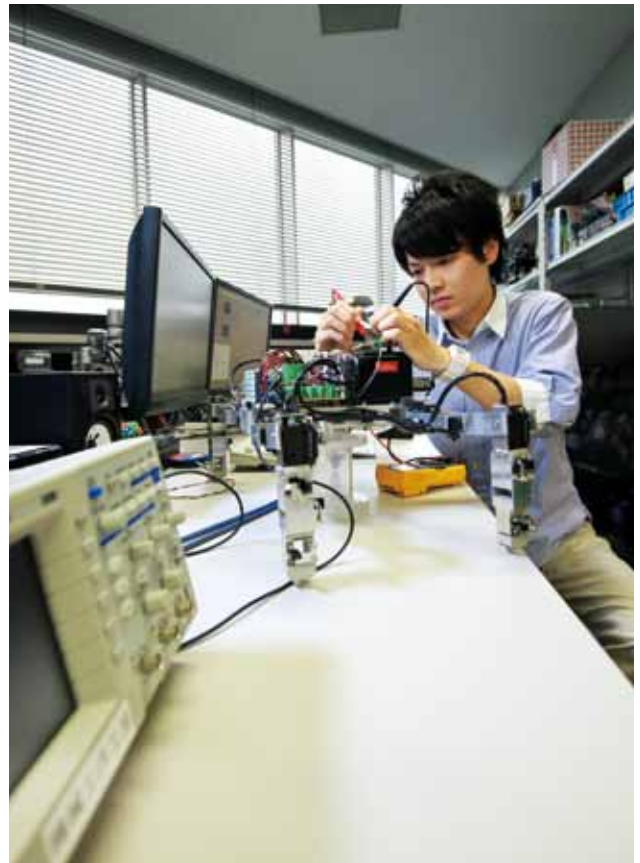
大学院学生に対する教育研究体制の充実

大学院進学希望者のニーズは多様であり、各研究科においては、それぞれの目的、目標を踏まえ、学生の受け入れ、指導が行われている。それにもかかわらず大学院学生数は減少しているため、その要因はさまざまな角度から分析されなければならないが、教育研究機能を強化することによって高等教育機関としての大学院を活性化し、魅力あるものにしていくことが必要である。

大学院の活性化への施策は、各研究科の目的、目標を点検することから始まり、その達成に向けてカリキュラムの検討が求められる。また各研究科間での共通科目の設定、全学開放科目の整備、兼担教員の活用など柔軟な対応が考えられる。資源の効果的な活用ということから研究科の改組・再編も考えられるところである。このように各研究科での検討に加え、大学院の諸制度の整備を全学的に検討していくことが必要である。

施策

- ① 研究科の目的、目標および教育研究システムなど、中期目標の発信
- ② 研究科の目的、目標および教育研究システムなど、中期目標を達成するにあたり、研究科共通の課題に対応する委員会の設置と制度の整備
- ③ 大学院における教育研究機能を強化するため、改組・再編の検討



Ⅲ 大学院

推進事項3

大学院学生のキャリアパスの多様化に向けた取り組みの推進

大学院への進学を希望する学生が進学を躊躇する大きな要因の一つに、キャリアパスの不透明さがあげられる。大学院学生のキャリアパスに関し、現状はサポート体制も含めて決して明確、また十分とは言えない。

大学院学生を教育する機関としてキャリアパスを明示することは責務であり、なかでも博士前期課程（修士課程）に在学する学生の進路について対応策を展開することが必要である。対応策展開のプロセスにおいては、高度専門職業人の養成に不可欠な産業界などとの連携も深まることが期待でき、大学院の魅力を向上させることにもつながる。大学院は、教員による個別指導が基本であるが、研究科で具体的にキャリアパスを示すことが求められるとともに、進路について組織的な対応が必要である。

施策

- ①大学院学生のキャリア形成に対する意識を高めるため、進路支援対策の実施
- ②大学院教育におけるキャリアパスの多様化・具体化を実現できるカリキュラムの導入
- ③大学院学生の就業改善に向け、各研究科の指導教員をはじめとする組織的な対応の強化

推進事項4

研究者養成機能の強化を目的とした博士後期課程の研究環境の整備

優秀な学生が博士後期課程へ進学する場合、研究職へのキャリアパスの不透明さや経済的負担などの問題があり、また、博士の学位取得に長い年月を要する分野も存在した。さらには、博士の学位取得後の進路（いわゆるポストドクター）の問題や指導教員のさまざまな負担も課題となっている。

優秀な大学院学生を研究者として育成していくことは、本学の社会へ果たす重要な役割であり、教員自身の研究力向上と本学の学術研究の継続的な発展にもつながる。研究科の目的、目標とする研究者養成の指導体制などを点検、強化するとともに、研究者養成に向けた環境を整備していくことが必要である。

施策

- ①課程博士の学位授与数拡大をめざした指導体制の点検・整備
- ②大学院学生が早期から教育研究活動に参画することを可能とする、経済的支援を含んだ各種制度の検討・充実
- ③博士学位取得後も研究を続けられる環境の整備

